

薪ストーブの使い方とお手入れの仕方

ここでは共通事項や基本的な内容をご紹介します。ストーブを使う際は、メーカーごとの取扱説明書もよく読みましょう。

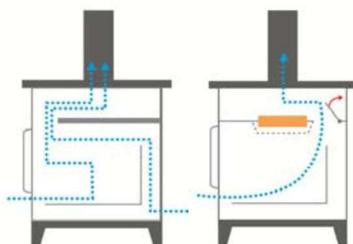
使い方

薪の選び方

十分に乾燥した薪を使いましょう(含水率は20%w.b.程度以下が望ましい)。乾燥の度合いは、含水率計や叩いた音(乾いた高い音がすればOK)、重さ・触感などで判断できます。また、化学処理されていない無垢の木材を使いましょう。建設廃材、農薬が付着した樹木、プラスチック、タイヤ、食べ物等は薪ストーブで燃やさないようにしましょう。

① 空気取入口を開ける

着火時は十分な空気が必要なので、空気取入口(一次、二次とも)を全開にします。触媒方式の場合はバイパスダンパーを開けます(燃焼ガスを触媒に通さない)。



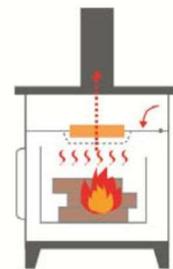
② 着火

- ・着火剤の上に焚き付け用の細薪、さらに中くらいの薪を数本のせ、着火剤に点火します。
- ・煙突が冷えているとドラフトが弱くうまく燃えないので、新聞紙を丸めたもの等を燃やしドラフトを立ち上げます。



③ 燃焼の維持

- ・燃焼が安定したら太い薪をくべます。
- ・(温度計がある場合) 温度を200~300℃に保ちます。300℃を超えたら薪の投入をやめ空気量を絞りましょう。
- ・触媒方式の場合はバイパスダンパーを閉め、触媒に燃焼ガスを導き二次燃焼させます。



④ 消火

薪の投入をやめ、燃えつきるのを待ちましょう(水をかけて消火するのは危険なので絶対にやらないこと)。

メンテナンス

炉内の掃除、除湿 **シーズン前後**

燃焼室の灰やすず、タールをブラシなどで取り除き、耐火レンガや火格子などの劣化があれば交換しましょう。通気を保つ、または吸湿剤を入れて湿気がこもらないようにしましょう。

ガスケットの点検・交換 **シーズン前後**

ガスケットは気密性を保つためのものです。紙などを挟んで引抜き抵抗がなければ問題ありません。また硬化や毛羽立ちなどがあれば交換しましょう。



ドアガラスの清掃 **日常**

布とガラスクリーナーでふきましょう

灰受け皿の掃除 **日常**

灰受け皿が満杯になる前に掃除しましょう。

煙突の点検と掃除 **シーズン前後**

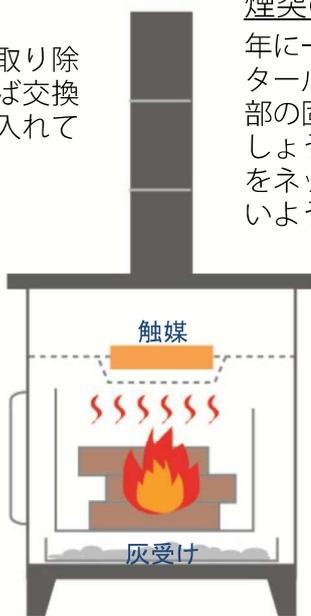
年に一度は必ず煙突内を点検し、すすやタールがあればブラシで除去します。接合部の固定や、損傷・劣化の有無も確認しましょう。シーズンオフの期間は煙突トップをネットなどで覆い、落ち葉や虫が入らないようにしましょう。

ドイツには「煙突掃除法」があり、ほとんどの家庭には年に一度、煙突清掃員が訪れ、詰まりや一酸化炭素の発生などの検査を行います。



触媒の交換

触媒方式の場合は、メーカー指定の時期に触媒を交換しましょう。

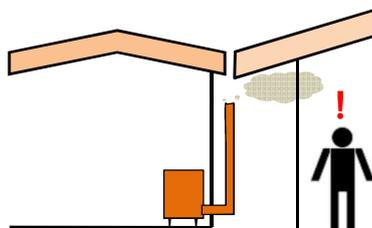


フルメンテナンス 3~5年に1度は専門家によるストーブ本体と煙突のフルメンテナンスを行いましょう

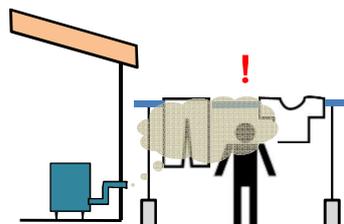
さいごに

ご近所への配慮を忘れずに

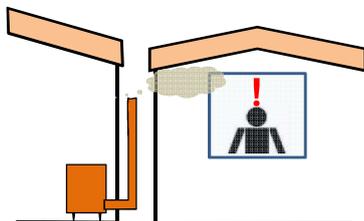
次のような場合は、ご近所に迷惑になる可能性があります。ストーブと煙突の設置位置、煙突の高さを再検討してみましょう。



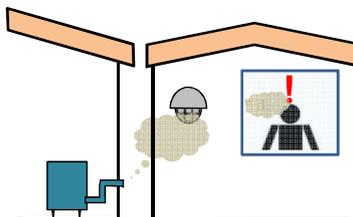
ひさしが重なりそうな距離…
隣家が近く、ひさしより低い位置に煙突（排気筒）を設置すると、ひさしの下に煙がこもることがあります。



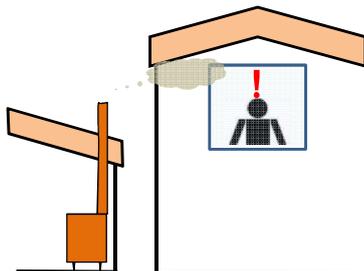
洗濯干し場が近い！
ご近所の物干し台近くに煙突（排気筒）を設置すると、洗濯物に煙の臭いが付くことがあります。



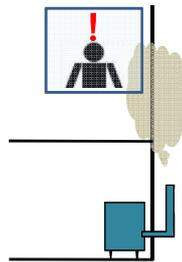
窓が近い！
ご近所の窓の近くに煙突（排気筒）を設置すると、煙が窓から入ることがあります。



給気口が近い！
ご近所の給気口近くに煙突（排気筒）を設置すると、煙が給気口から室内に引き込まれることがあります。



隣の家が高層住宅！
煙突を自分の家の屋根より高く設置していても、ご近所が高層住宅であれば、煙が流れていくことがあります。



集合住宅で上に部屋がある！
集合住宅で自分の部屋より上に部屋がある場合は、煙がのぼって窓から入ることがあります。

薪ストーブ・ペレットストーブの環境にやさしい使い方5か条

- 1 よく乾いた無垢の燃料を使いましょう
- 2 熱効率の高いストーブを選び、正しく設置して性能を発揮させましょう
- 3 可燃物からの離隔距離を守って、火事を起こさないよう注意しましょう
- 4 こまめに清掃し、シーズンオフには点検しましょう
- 5 ストーブの煙や臭いがご近所の迷惑にならないようにしましょう
煙突や排気筒の先端は窓や人から十分離して